

ニチニチソウ

日日草植え付けからの育て方

・10℃以上を保てば冬越しもできます。
原産地の熱帯地方では、低木になり毎年花を咲かせますが、日本では管理も大変なので、一年草として扱うのが一般的です。

5月から10月にかけて、毎日咲くことから「日日草」と呼ばれるようになりました。

植え付け

- ・植え付けは、温かくなった5月から6月頃が適期です。
- ・日日草は、太い根が一本生えているだけで、根を傷つけると弱るか枯れてしまいます。
- ・苗が入るくらいの穴を掘り、ポットを外したら、苗の土をほぐさず、そのまま植え付けましょう。



用土

- ・用土は、市販されている草花用培養土で植え付けを行います。
自作する場合は赤玉土6腐葉土4を混ぜてください。

置き場

- ・日日草は、日光を好みますので陽当たりと風通しの良い場所で管理します。

日ごろの管理

- ・花が終わったら花柄を積みましょう。そのままにしておくと種を作ろうとして栄養が取られつぼみが少なくなります。
- ・花びらが散り、葉の上についていたりすると病気の原因になりますので取り除きましょう。



水やり

- ・表土が乾いたらたっぷりと与えましょう。ただし真夏は高温で蒸発が激しいので、朝と夕方の二回、しっかりと水をやるようにします。
- ・日日草は乾燥に強い反面、長い間、土が湿っていると根腐れを起こして最悪枯れてしまいます。

摘心

- ・摘心は、梅雨明けに行います。先端の芽をハサミで切って脇芽を出させることで、株を大きく育てることができます。

切り戻し

- ・日日草はよく伸びるので、混み合っている箇所は時期を気にせず切り戻しましょう。こまめに切り戻すと、脇芽が伸びて花数を増やせます。スッキリすると風通しがよくなるので、病気や害虫の予防にもなります。切ったすぐ下の葉の脇から新しい芽が出てきて、また花をたくさん咲かせてくれます。

肥料

- ・毎日花を咲かせるために肥料は切らさないようにしましょう。植え付け用土には、緩効性肥料をまぜておきます。開花時には、週一回液肥を与えるか、1ヶ月に一回、固形肥料を追肥してください。

病害虫

- ・アブラムシ・ハダニ・ウドンコ病・立ち枯れ病にかかることがありますが、基本的に頑健です。オルトラン粒剤をまいて置くと良いでしょう。